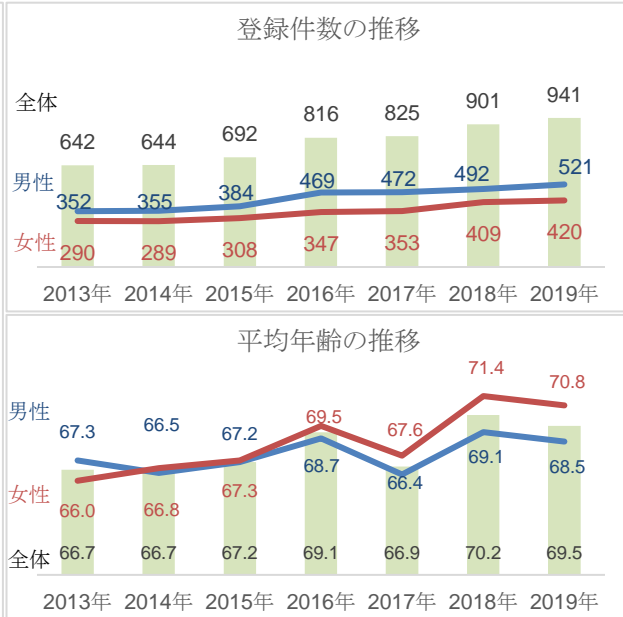
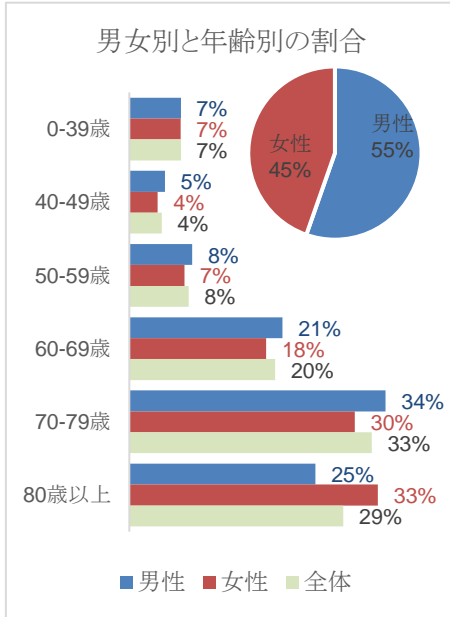


● 1 診断 ●

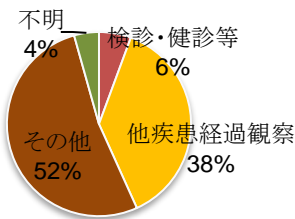
● 1-1 登録状況 ●

血液腫瘍の2019年診断症例の登録件数は941件で、男性55%、女性45%でした。



◆ 1-1 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2013-2019年診断
▶症例区分8, 80除く
(付録資料:表A-19)
(付録資料:表B-15)
(付録資料:表C-15)
(付録資料:表D-15)

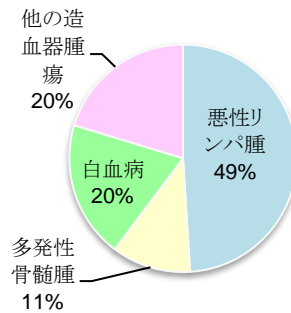
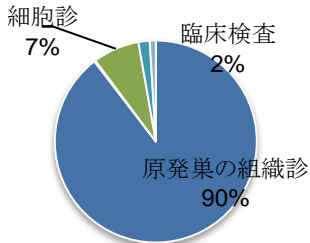
● 1-2 がんが発見される経緯 ●



血液腫瘍が発見される経緯で最も多いのは、自覚症状を含む「その他」で52%、次に多いのは、他疾患経過観察中で38%です。

◆ 1-2 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表F-15)

● 1-3 診断 ●



◆ 1-3 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表G-15)
(付録資料:表AA-3)

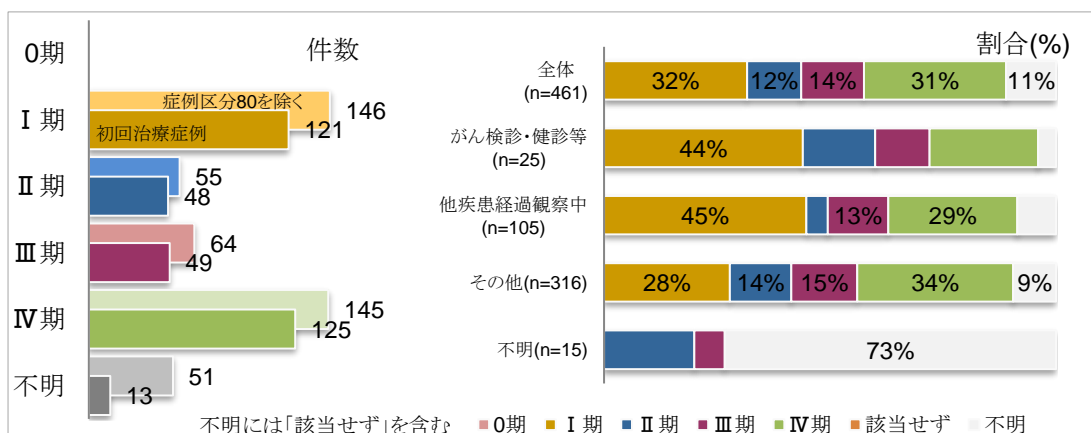
● 1-4 詳細亜分類 ●

		2017年	2018年	2019年
骨髄系腫瘍	骨髄増殖性疾患、肥満細胞症	70	72	77
	骨髄異形成・骨髄増殖性腫瘍・骨髄異形成症候群	88	125	131
	急性骨髄性白血病及び関連前駆細胞腫瘍	71	84	93
	分化系統不明瞭な急性白血病	1~3	0	1~3
	その他骨髄系腫瘍	1~3	4~6	1~3
リンパ系腫瘍	前駆型リンパ球系腫瘍	31	24	25
	成熟B細胞腫瘍	342	368	393
	形質細胞腫瘍	93	94	97
	成熟T細胞およびNK細胞腫瘍	61	64	70
	ホジキンリンパ腫	22	20	17
	その他リンパ系腫瘍	34	39	26
組織球及び樹状細胞腫瘍		1~3	1~3	0
その他(上記で分類できないもの)		4~6	4~6	7~9

◆ 1-4 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2017-2019年診断
▶症例区分80除く

● 1-5 悪性リンパ腫 病期(総合ステージ) ●

悪性リンパ腫の病期の割合は、評価対象である461件のうち、I期が32%、IV期が31%です。

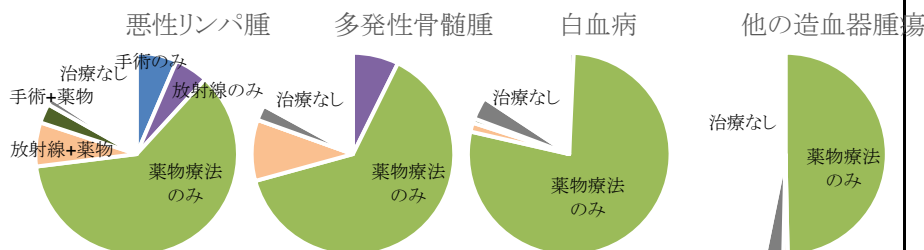


● 2 治療 ●

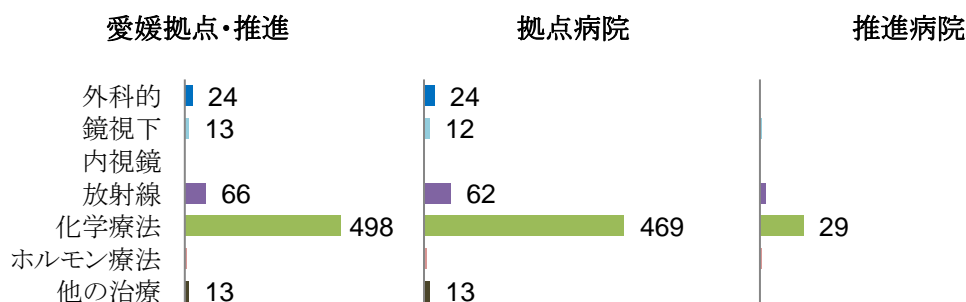
● 2-1 治療 ●

主な治療法として、『薬物療法のみ』が多く、悪性リンパ腫で61%、多発性骨髄腫で63%、白血病で78%を占めています。骨髄異形成症候群などが主体の『他の造血器腫瘍』では有効な治療法が確立されていないものも多く、『治療なし』が47%を占めます。

	悪性リンパ腫		多発性骨髄腫		白血病		他の造血器腫瘍	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
手術のみ	23	6%	0	0%	0	0%	0	0%
放射線のみ	19	5%	4~6		1~3		0	0%
薬物療法のみ	218	61%	52	63%	109	78%	70	50%
放射線+薬物	25	7%	7~9		1~3		1~3	
手術+薬物	11	3%	0	0%	1~3		0	0%
上記以外の組合せ	4~6		1~3		4~6		4~6	
治療なし	56	16%	14	17%	22	16%	66	47%
合計	356		82		140		141	



● 2-2 各治療の件数 ●



◆ 1-5 資料
院内がん登録
総合ステージ別
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表AA-1)
(付録資料:表AA-2)
(付録資料:表H-15)

◆ 2-1 資料
院内がん登録
総合ステージ別
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分20-31
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表AA-5)

◆ 2-2 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分20-31
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表AA-6)



● 3 予後 ●

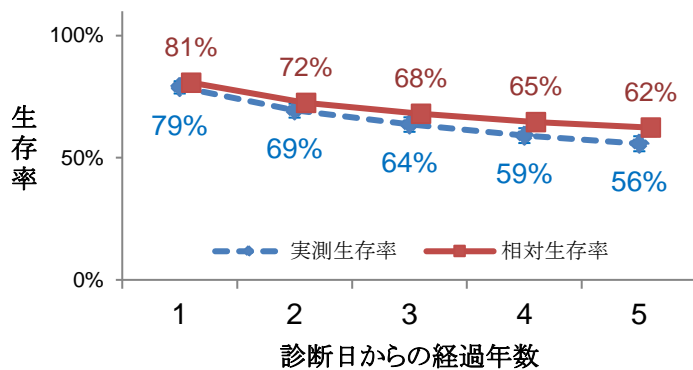
● 3-1 5年相対生存率 ●

2012年と2013年に診断された血液腫瘍全体の5年生存率は、実測生存率55.8% (95%信頼区間52.7 - 58.8)、相対生存率62.3% (95%信頼区間 58.8 - 65.7)でした。集計対象数は1,009、そのうち53%が悪性リンパ腫、21%が白血病、11%が多発性骨髄腫、16%が他の造血器腫瘍の割合でした。血液腫瘍ではその亜型により大きく予後が異なります。

性別の内訳では、男性が56%とやや多く、年齢別では40歳未満 7%、40歳代 4%、50歳代 14%、60歳代が26%、70歳代 31%、80歳代以上が19%となっています。

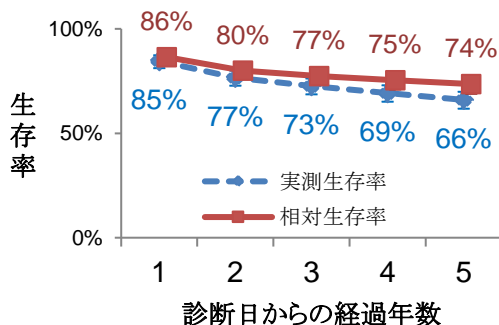
*予後判明率 98.1%

	N	実測生存率			相対生存率		
		1	95%信頼区間		1	95%信頼区間	
	1,009	1			1		
1年	794	0.790	0.763	0.814	0.808	0.781	0.832
2年	695	0.694	0.664	0.721	0.725	0.694	0.754
3年	633	0.637	0.606	0.666	0.680	0.647	0.711
4年	585	0.591	0.560	0.621	0.646	0.612	0.678
5年	547	0.558	0.527	0.588	0.623	0.588	0.657

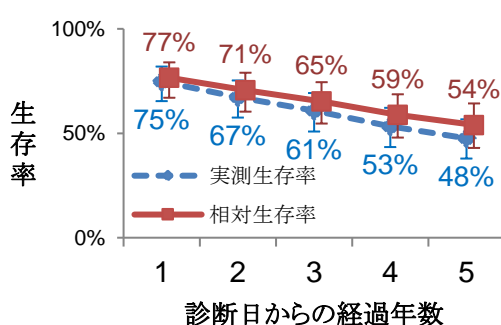


● 5年相対生存率 ●

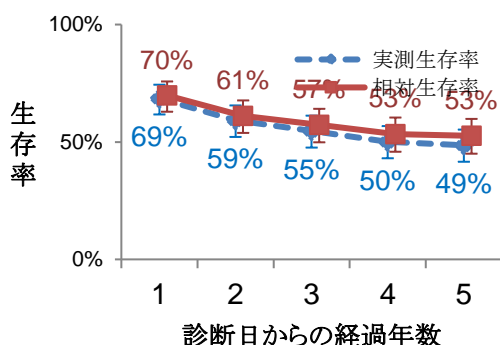
悪性リンパ腫 (N=531)



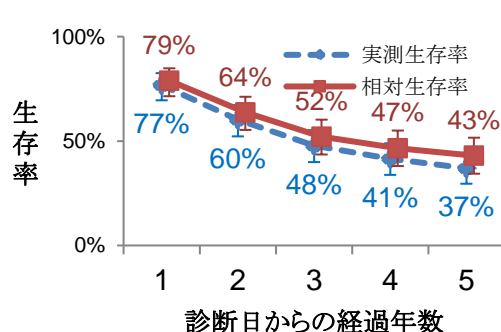
多発性骨髄腫 (N=107)



白血病 (N=207)



他の造血器腫瘍 (N=164)



◆ 3-1 資料

院内がん登録
集計対象:

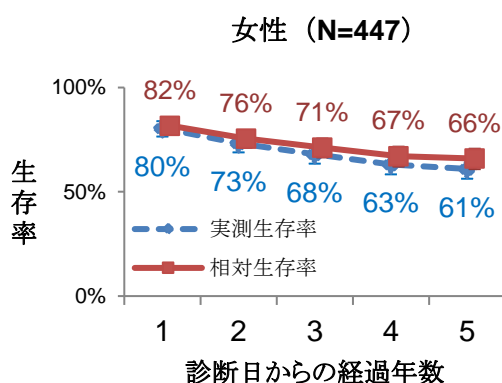
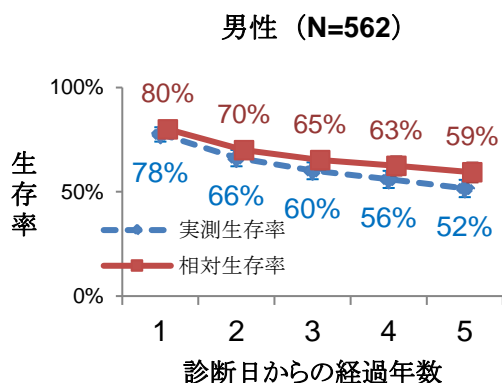
- ▶ 拠点のみ
- ▶ 2012-2013年診断
- ▶ 症例区分2,3のみ
- ▶ 100歳未満
- ▶ 総合ステージ
0期除く

◆ 3-2 資料

院内がん登録
集計対象:

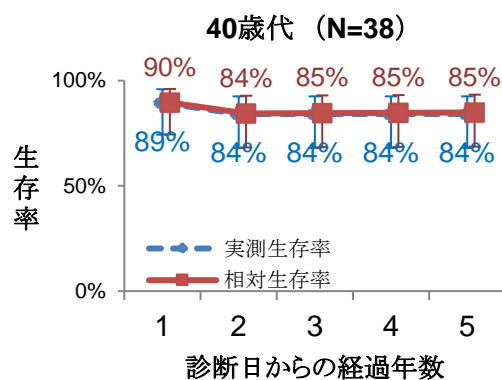
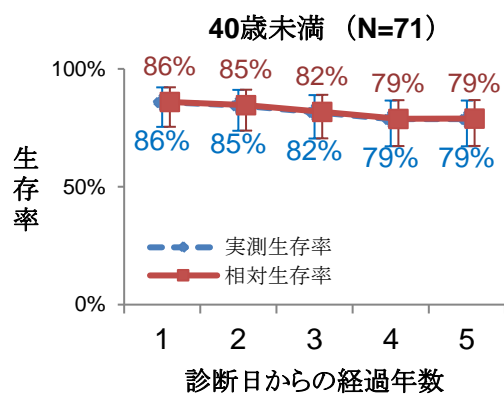
- ▶ 拠点のみ
- ▶ 2012-2013年診断
- ▶ 症例区分2,3のみ
- ▶ 100歳未満
- ▶ 総合ステージ
0期除く
(付録資料:表o-1)

● 3-3 性別 5年相対生存率 ●

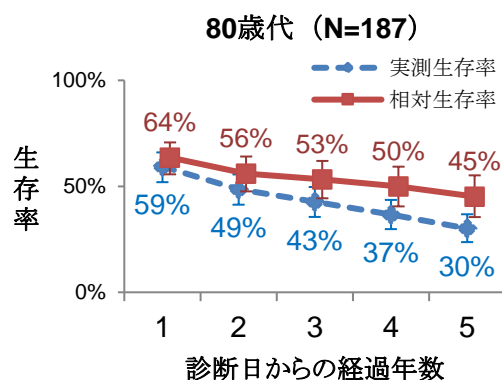
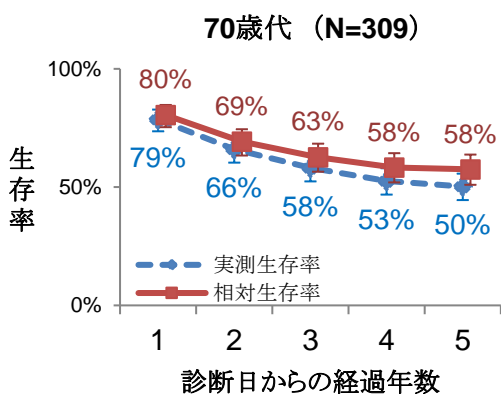
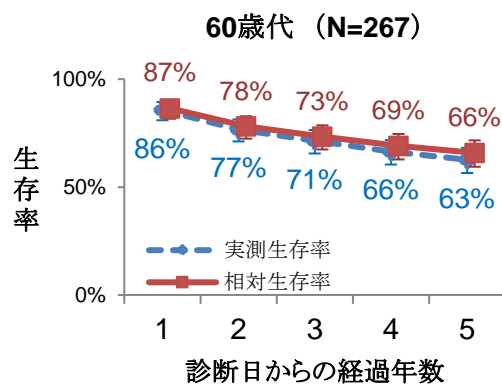
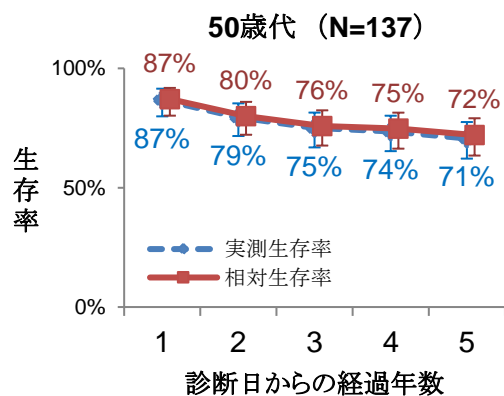


◆ 3-3 資料
院内がん登録
集計対象:
▶ 拠点のみ
▶ 2012-2013年診断
▶ 症例区分2,3のみ
▶ 100歳未満
▶ 総合ステージ
0期除く
(付録資料:表o-2)

● 3-4 年齢群別 5年相対生存率 ●

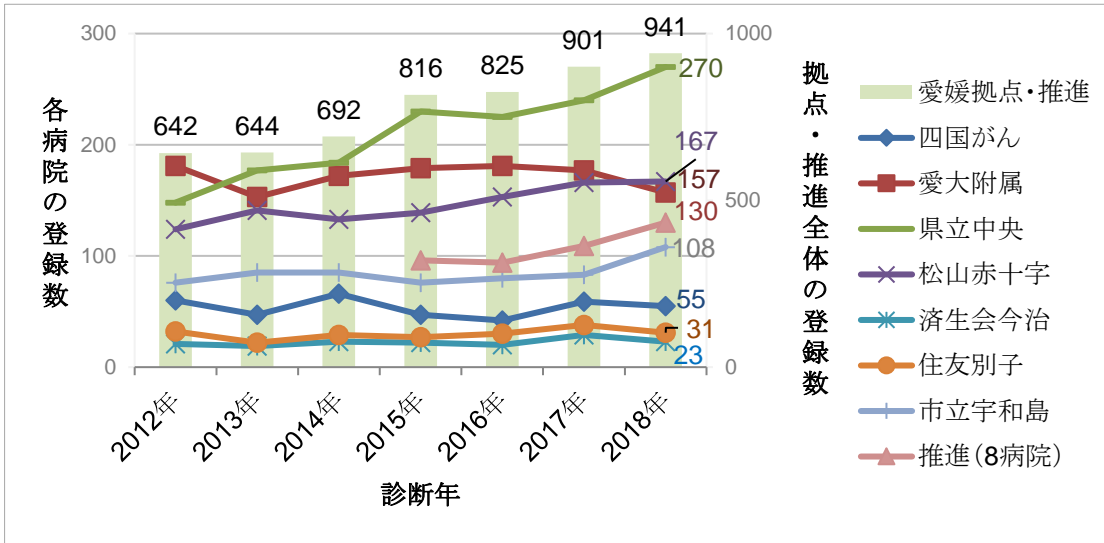


◆ 3-4 資料
院内がん登録
集計対象:
▶ 拠点のみ
▶ 2012-2013年診断
▶ 症例区分2,3のみ
▶ 100歳未満
▶ 総合ステージ
0期除く
(付録資料:表o-3)



4-1 登録件数の推移

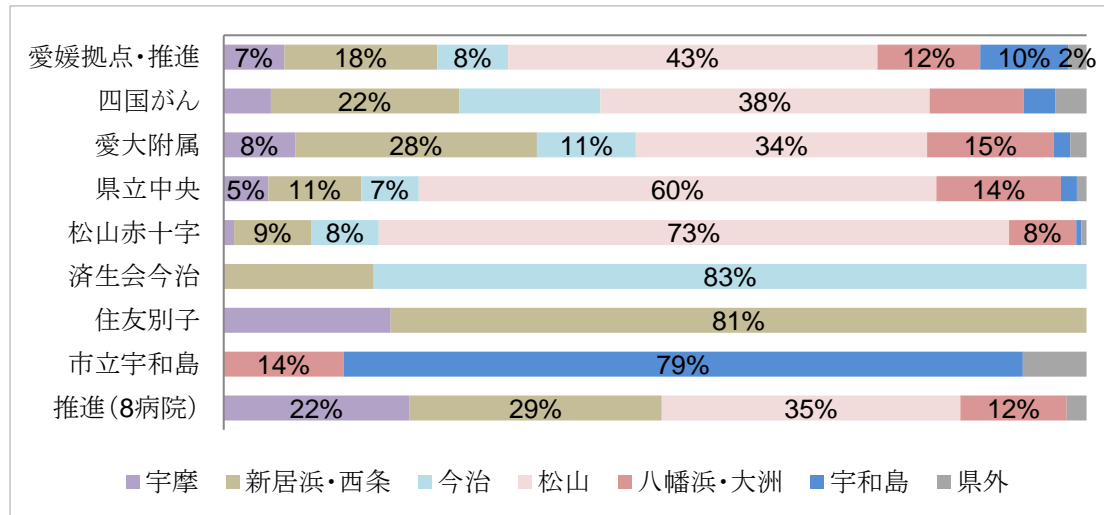
血液腫瘍の2019年診断症例の登録件数は、県全体で901件でした。2016年診断症例以降、推進病院の情報も加わり、県全体で800件をこえて推移しています。



◆ 4-1 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2013-2019年診断
▶症例区分8, 80除く
(付録資料:表A-19)

4-2 診断時の住所(二次医療圏別)

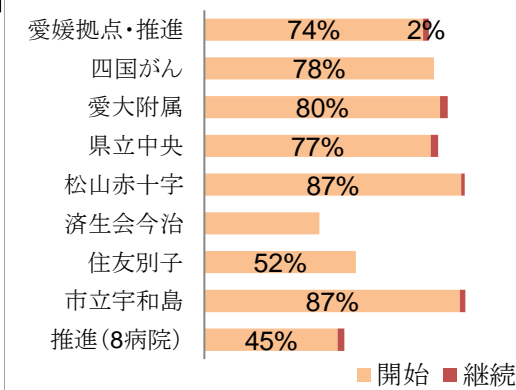
診断時の居住地域の割合を示しています。拠点・推進病院全体では43%が松山圏域の患者です。



◆ 4-2 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表I-15)

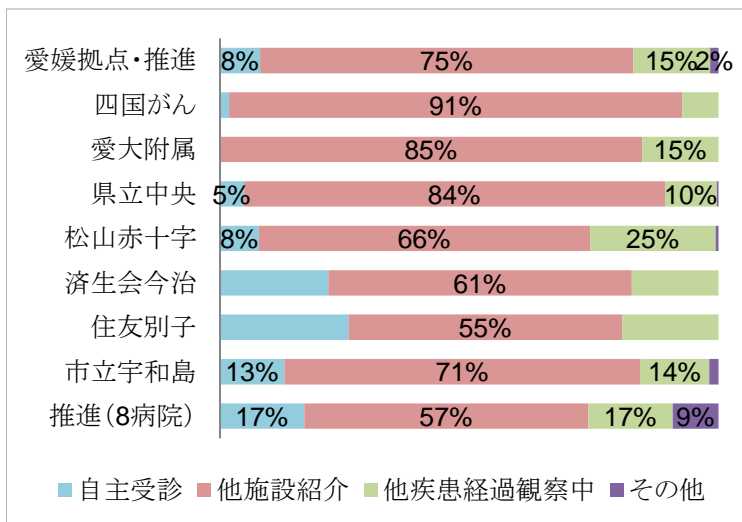
4-3 治療(初回治療)を行った症例の割合

新規の症例のうち76%がその病院で初回治療を受けています。初回治療開始症例の割合は74%です。初回治療症例の割合は病院により差があり、治療症例の割合が低い施設では、診断のみを行った症例や再発治療目的でその病院をはじめて受診した症例が多いことを示しています。



◆ 4-3 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表K-15)

■ 4-4 来院経路 ■

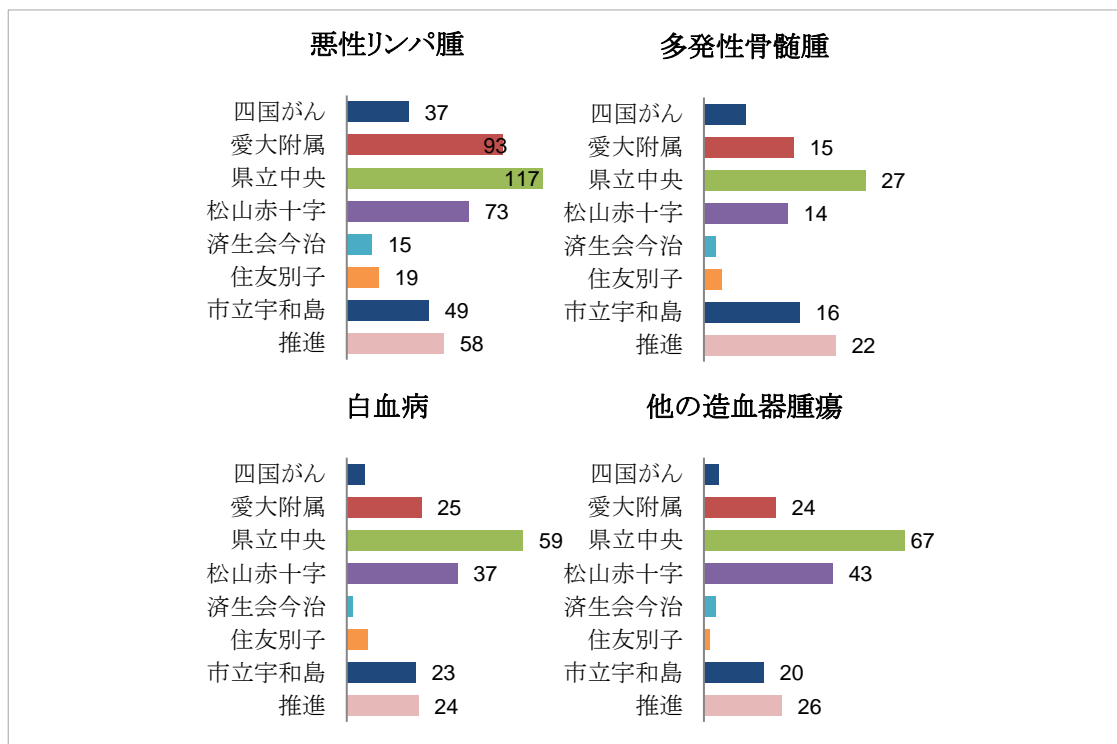


拠点・推進病院を受診した患者の75%が他施設からの紹介受診です。紹介なく、自主受診した割合は、病院により異なりますが、地域での役割や病院特性などを表していると考えられます。

◆ 4-4 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表L-15)

■ 4-5 腫瘍別の件数 ■

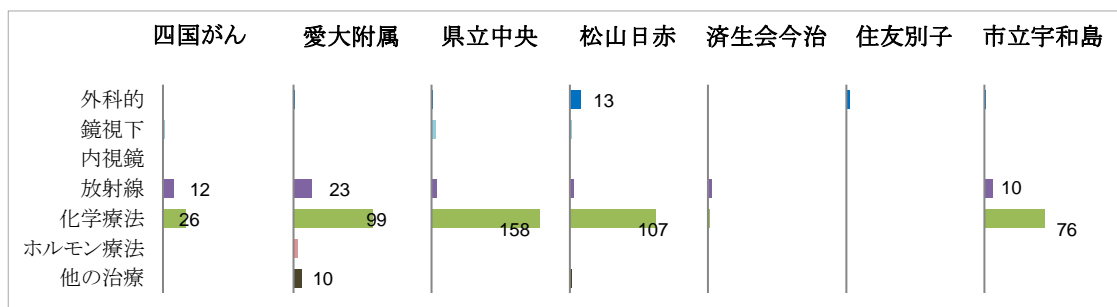
各病院の登録数を示しています。



◆ 4-5 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表AA-3)

■ 4-6 治療の件数 ■

各病院で行われた初回治療の件数です。



◆ 4-6 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2019年診断
▶症例区分20-31
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表AA-6)